

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

新たな被覆網によるアサリ保護試験(大浜地区)

県北広域本部水産課・永田 大生

【背景・目的・目標(指標)】

今年度、管内で有効性が確認された網袋による採苗と被覆網を組み合わせた新たなアサリの保護手法について、大浜漁協、当水産課が連携して、大浜地区に適した手法を開発することを目標として、現地指導を行った。

【普及の内容・特徴】

(1) 網袋の設置に係る現地指導

令和3年(2021年)6月から7月までの2回、アサリ稚貝の発生が確認された漁場において、漁業者が砂とアサリ稚貝を網袋に入れ、設置する作業を行ったため、現地指導を行った。合計、500袋を作製し、漁場に設置されたが、網袋が波浪の影響で散逸したため、網袋が波浪の影響を受けないよう、溝を掘って設置するよう指導した。

(2) 網袋による採苗の効果調査

令和3年(2021年)7月から9月までの間、月2回程度、効果調査を実施した。網袋内のアサリ稚貝は、9月までに約6割が生残したが、それ以外の漁場では約9割の消失を確認した。網袋内のアサリの平均殻長は、7月には6.6mm(n=120)であったが、9月には13.2mm(n=409)に成長した。

(3) 被覆網設置に係る現地指導

令和3年(2021年)9月及び12月までの間、月2回程度、現地指導を行った。目合い9mm角目、大きさ5m×4mのラッセル網の下に、網袋で保護したアサリ稚貝を移植した。なお、波浪による影響を防ぐため、縁辺部に長さ50cmのプラスチック製杭を約50cm間隔で打ち込むとともに、土嚢を網上に設置するよう指導し、計8枚(計160m²)設置した。

(4) 被覆網の効果調査

令和3年(2021年)10月から令和4年(2021年)1月の月2回程度、効果調査を実施した。9月に移植したアサリの1月までの生残率は、被覆網下は52.3%、対照区は3.1%であった。一方、12月に移植したアサリは、被覆網下が92.7%、対照区が20.5%であった。

【成果・活用】

網袋による採苗は、波浪の影響を防ぐため、溝を掘って設置することで対応可能であることがわかった。また、網袋から被覆網への移植時期は、9月までに実施する方がアサリの生残率が高いことが明らかになった。

【達成度自己評価】

4 目標(指標)はほぼ達成できた(76~100%)

(様式)

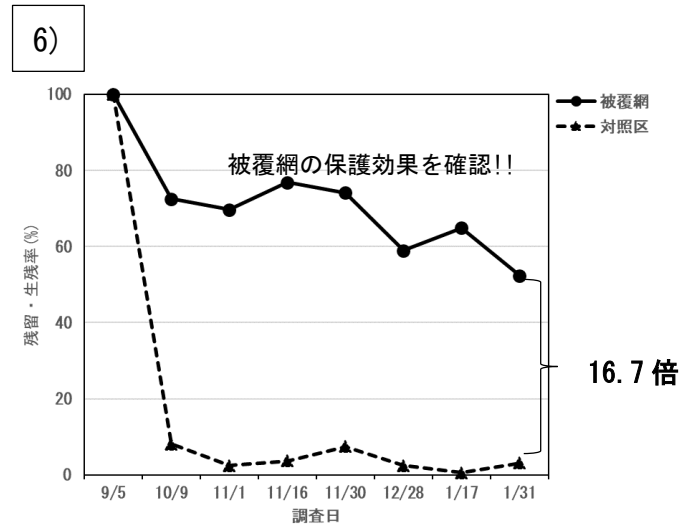
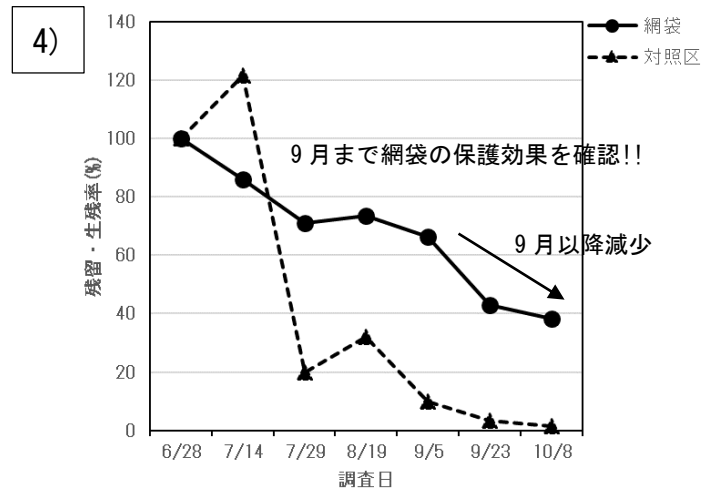


図1 試験漁場

図2 水産課による網袋採苗の設置指導

図3 組合員による網袋作製

図4 網袋の生残率の推移(各試験区計4回の10cm方形枠による枠取結果から算出)

図5 9月に設置した被覆網の状況(5m×4m 計4枚)

図6 9月に被覆網下へ移植したアサリの生残率の推移(同上)